

講座報告

様々な分野での女性の参画推進講座

「政治参画」ってなんだろう? (全2回)

令和5年10月7日(土)、14日(土) 13:30~16:00
ムーブ 5階 大セミナールーム

第1回 アメリカ政治とジェンダー

~アフリカ系女性議員の闘いから学ぶこと~

[講師] 中部大学 人間力創成教育院 語学系嘱託講師 岡田 泰弘さん



昨年度新設された「様々な分野での女性の参画推進講座」。今年度は「女性の政治参画」をテーマに、全2回の連続講座を実施しました。日本は政治・経済分野でのジェンダーギャップ指数の立ち遅れが指摘されています。そこで、なぜ女性の政治参画が進まないのかを考えるとともに、政治に参画することをさまざまな視点から考える講座を実施しました。

第1回では、ドキュメンタリー映画『権力を恐れず真実を』(米国下院議員バーバラ・リーの闘いー)(2020年・アメリカ)の上映と字幕監修者である岡田さんによる講演を通じて、アメリカの事例を学びました。映画はアフリカ系女性下院議員であるバーバラ・リーの政治キャリアと人生に焦点を当てた作品。上映後には、講師の岡田さんからアメリカ議会におけるアフリカ系議員、女性議員の割合の推移などが紹介され、リーの政治理想やその民主主義的な政治活動、グローバル(地球規模の視野で考え、地域で行動すること)な視点を学ぶなど理解を深めました。

第2回は、地域の事例を学ぶため、福岡県内で活動している団体や大学教授など3名の講師を招聘し、それぞれご講演いただきました。宗像さんは、主権者教育の必要性と「新しい主権者像」について。芳野さんは、政治と暮らしをつなげて語れる社会を目指し、子育て世代や子どもを対象に取り組んでいる主権者教育活動について。中牟田さんは、2023年2月の北九州市長選前に立ち上げ

男女共同参画啓発講座 ムーブ映画祭

令和5年12月2日(土) 13:00~16:00 ムーブ 2階 ホール

『夕陽のあと』(2019年)上映

西南女学院大学 教授 シネクラブサポート会 会長 中島 俊介さん
小倉昭和館 館主 樋口 智巳さん



わが子を手放した「産みの母」と、不妊治療が報われず里子を実子として迎える決意をした「育ての母」、二人の母の苦しみと希望が描かれた作品を上映。シングルマザーの貧困、DV、不妊治療、特別養子縁組制度など、女性を取り巻く社会問題について考えるひとときとなりました。

上映前に中島さんと樋口さんをゲストに迎えたトークイベントを開催。中島さんは心理学の研究者としての立場から、本作について「愛とは何か」という観点でお話をいただいたほか、小倉昭和館の再建を支援してきた経緯とその思いをお聞きしました。また、樋口さんは小倉昭和館の営業再開に向けた決意と上映予定作品の紹介、実行委員を務める北九州国際映画祭のPR、映画の持つ魅力などについてたっぷりとお話を伺いました。ユーモアを交えた軽快なトークに会場からは笑いが起こるなどし、ゲストの息の合ったトークをお楽しみいただきました。

第8回 北九州地域のさまざまな分野でご活躍中の皆さまをエッセイでご紹介します。

リレーエッセイ ムーブ×私 ミャンマーでの小学校建設



DV防止北九州マープルリーフの会 代表
おかもと 岡本 エミ子さん

昭和43年北九州市児童相談所勤務後、昭和54年杉の実福祉社会入職、現中央しおり保育園園長、北九州市保育所連盟八幡東支部長、北九州市少子社会懇談会委員、アジア女性交流・研究フォーラム評議員などを歴任、幅広く活動している。

小学校を建設するという話がまとまりました。参考までに、私たちは意思決定が速いのです。「夫に相談してからね」という言葉は誰からも出ません。夫へは事後報告です。

平成30年5月ヤンゴンからバスで4時間かけてエーヤワディ地区ジッピン村での開校式に向かいました。村の入り口で出迎えてくださった村人と子どもたちの姿に感動しました。この村には電気、水道も引かれていません。しかし、貧しくても親から子どもへの愛情、教育に対する熱意は素晴らしいものです。毎年、訪問をしていたのですが、残念ながらクーデターのため、近年は訪問することができませんが、今でも子どもたちの輝いた瞳が頭に刻まれています。

私たちの歩みもあつという間に26年経ちました。仲間とともに歩んだ道、DVについての学びを続け、また語り合うことが私たち自身の心のよりどころになっています。

講座報告

女性への暴力ゼロ運動特別講座 DV加害者は変われるか

令和5年11月10日(金) 13:30~15:30



さまざまな事情でDV加害者から離れない選択をする被害者も多くいます。今回は、DVの加害者と被害者の関係であったご夫婦から、関係回復への道のり、お互いの思い、体験して分かったことなどを率直に語っていただきました。

DVは行為というよりは関係性です。強い方は無意識に自分の価値観を弱い相手に押し付け、弱い方は自分の言いたいことが言えずに飲み込む。対等ではない関係がDVです。

自分で加害者と気づいている人はいないため、理不尽ですが、まずは被害者が動くことが解決への第一歩です。私は(拓さん)も、妻が子どもを連れて避難したことがきっかけでDVチェックリストを実施し「全部自分に当てはまる」と加害に気づきました。

加害者も被害者も心に傷を抱えており、どちらも回復には何年もかかります。私は(亜衣子さん)も、夫と離れたらすぐに楽になれると思っていたが、悲しくて笑顔になれませ

【講師】一般社団法人エフエフピー 代表理事 中川 拓さん
一般社団法人エフエフピー 理事 中川 亜衣子さん

でした。夫と再出発をした後は夫に怒りが湧き、つらすぎて泣いたこともあります。DVの仕組みを知り、なぜ私は暴力を受け入れたのかを理解することで怒りが小さくなっていました。

爆発する怒りはその人が人生でため込んだものです。その傷は子どもの頃についたものが多く、DVが起きないためには子どもの心に傷をつけないことが重要です。DVや面前DVは、被害者であるはずの母と子どもの関係を悪化させることができます。今DVに悩まれている方、どうか一人で抱え込まないで、NPOなどの支援団体やDVの相談機関などにぜひ相談してください。

政治って、面白い! —女性政治家24人が語る仕事のリアル

「政治家ってこんなにやりがいのある仕事なんだ」と思わせてくれる、魅力的な語りに溢れた本である。本書に登場する24人の女性政治家(国会議員、地方議員、首長)のバックグラウンドや掲げる政策課題はさまざまだが、共通して目指すのは「政治のフェミニゼーション(女性化)」である。男性中心の政界でハラスメントやケア責任との両立などの問題に直面しながら、既存の政治で周縁化してきた女性や社会的弱者の声を代弁すべく日々奮闘する彼女たちの活動を知り、これまでの政治家に対するイメージがガラリと変わるに違いない。

昨年10月にムーブで開催された女性の政治参画推進講座では、9.11同時多発テロ直後の合衆国議会で、軍事力行使承認決議にただ一人反対したバラ・リー議員のドキュメンタリー映画が上映された。上映後の講演で、私は「リー議員のように弱者に寄り添い、自分の信念に忠実に行動できる政治家を私たち有権者が育てていく必要がある」と述べた。本書を読むと、彼女のような女性政治家がすでに日本各地に存在し、時には党派を超えて連携しながら「男性政治」に変革のうねりを起こしつつあるのを感じる。

本書を読んで政治に関心を持った人は、自分の「推し」の議員を見つけてその活動を支えるのもよし、実際に立候補して議員として社会変革を目指すのもよし。本書は政治を自分ごととして捉え直し、民主主義制度への参画方法を新たに模索するきっかけを与えてくれるだろう。

中部大学 人間力創成教育院 語学系嘱託講師 岡田 泰弘さん



■ 三浦まり 編著
■ 花伝社
■ 2023年初版
■ 1,700円(税別)

政治のフェミニゼーション(女性化)

権力志向で男性中心の政治制度を温存したまま女性議員の数を増やすのではなく、女性の視点から既存の政治組織や選挙文化を根本的に変えていくとする試み。育児や介護などのケアワークを伝統的に担ってきた女性の経験を政策提言に生かすことにより、「ケア」、「共生」、「包摶」といった価値観を政治の場で実現することが期待される。本書にも登場する岸本聰子杉並区長が提唱し、多くの女性政治家に共有されている視点である。

トランスジェンダー入門

脱出ゲームにハマったことのある人はいるだろうか?迷宮の扉を開けて一歩入ると、そこは薄暗い部屋。「性のあり方という迷路をどう進めばいいのか」と途方に暮れたら、この本を開いてみてほしい。

まず、「トランスジェンダー(以下トランスと略記)を認めることで、『今日から自分は女です』と女風呂に入ってくる男が増えたら困る」と不安に思う人は、「第2章 性別移行」を熟読してほしい。ここでは「性別を変える」という過程を、①精神的移行、②社会的移行、③医学的移行の三つの角度から解説しており、誰が読んでも分かりやすい。世間では「性転換手術」のみが独り歩きしているが、実際は個人の精神的な気づきに始まり、周囲からの受容/拒絶と葛藤しながら、生きるためにホルモン療法や手術を選択するわけで、思いつきで性別を移行することはできない。「第3章 差別」の終わりにある突出した自殺意識調査と合わせて読むと、周囲の受容/拒絶が、トランスの命を左右する状況が伝わってくる。

一方、本誌の読者に注目してほしいのは「第6章 フェミニズムと男性学」だ。ここではトランスの望む世界と、フェミニズムが目指す社会に向けた協働の形が垣間見える。中でもこれまで無視されがちだった「ノンバイナリーの政治」には元気をもらった。

これまで長らく「男か女か」「敵か味方か」という過剰な二項対立と序列化によって多様性を消し去り、社会秩序をなんとか保ってきたわけだが、そろそろこの迷宮から脱出して、新たな地平を共に開きたい…そんな光が射し込んできた気がした。

共生社会をつくる性的マイノリティ支援全国ネットワーク 共同代表理事 原ミナ汰さん



■ 周司あきら、
高井ゆと里 著
■ 集英社
■ 2023年初版
■ 960円(税別)

ノンバイナリー

「この世には男と女しかいない」というのは極論で、すべての人が自身を男性、もしくは女性と認識しているわけではない。「女か男か」という二者択一の選択がしづらい人、局面によって性別が切り替わる人、そもそも「性はひとつ」と捉える人などの総称をノンバイナリーと呼ぶ。近年の調査では、男女どちらかにアイデンティティが固定されたバイナリー・トランスト、男女別アイデンティティをもたないノンバイナリー・トランスに分けて統計をとる傾向がある。

妊娠を知られたくない女性たち —「内密出産」の理由

妊娠は必ずしも喜ばしい出来事とは限らない。望まない妊娠や周囲から受け入れられない妊娠を誰にも打ち明けられずにいる、また知られたくない女性たちも少なくない。本書は、2022年に国が「内密出産」に関するガイドラインを発出した背景を踏まえ、妊娠出産に悩む女性たちを取り巻く現状や課題、ドイツでの支援制度、そして内密出産を制度化するために必要な取り組み等を支援者の視点から説明している。

日本では、個人情報を明らかにしなければ医療機関での出産や支援制度を利用できない。妊娠を他者に知られてしまうことを恐れ、未受診のまま孤立出産へと追い込まれてしまう現実がある。各自治体や民間機関が独自で相談対応をしているが、自己負担なしで誰にも知られずに出産するには、慈恵病院が行っている内密出産や「赤ちゃんポスト」を利用するしかない。

しかし、多くの外国人女性はそのような支援にたどり着くことさえもできずにいる。相談窓口が、外国人女性からの相談を想定した体制になっていないからだ。支援にたどり着けずに孤立出産となる外国人技能実習生が後を絶たない現状を考えると、日本の支援現場は包摶的な視点に欠けていると感じるのが正直なところだ。支援制度を進めていく中で外国人女性たちの存在も当たり前のように含むことを切に願いつつ、周囲に知られることなく産む権利を保障するための公費での制度を考える上で、必要な基礎知識として本書を薦めたい。

コムスター外国人と共に生きる会 事務局長 佐久間順子さん



内密出産

女性が医療機関のみに身元を明かして出産する仕組み。周囲に知られることなく産むという選択肢を設けることで、孤立出産を回避し新生児の命を守ることを目的にしており、現在日本では熊本市の慈恵病院のみで行われている。匿名出産とは違い、医療機関が母親の情報を保管しており、子が一定の年齢になった時に知されることで、子の「出自を知る権利」を守るとしている。しかし、現在は法制度が整っていないまま実施されている状態だ。

作りたい女と食べたい女 1~4巻

神戸大学 国際文化学研究科 講師 中村 麻美さん

作りたい。食べたい。シンプルな欲望のように思えるが、食にジェンダー役割や家族にまつわる規範が入り込んでくると、とたんにややこしくなってしまう。残ざす食べろ、でも食べすぎるな、会食の場で食べるのは失礼、女は料理ができる当たり前一等々、食は身近だからこそ、「こうでなければならない」という圧を引き寄せがちだ。他にも、量少なめや野菜多めの定食がなぜか「レディースセット」と呼ばれているのを目にするし、「スイーツ男子」という言葉も記憶に新しい。本作品では二人の女性(野本さんと春日さん)が、社会から押し付けられる偏見や差別一例えば「家族愛」という名の相互扶助の強制、賃金格差、住まい探しにおける差別一に抗いながら、自身の欲望を取り戻し、他者との親密性を探る姿が丹念に描かれており、表題が『作りたい女と食べたい女』なのもうなづける。

とはいえるシリアスな内容ばかりというわけではなく、心温まるエピソードや、料理のアイデアが豊富だ。紹介されるレシピの材料はコンビニで手に入るものが多く、気負わない料理が提示されている。主要登場人物らの二人の友人、矢子さんと南雲さんも物語の鍵を握る。矢子さんは自炊に消極的で、総菜やレトルトを楽しむ一方、南雲さんは会食恐怖症を抱えている。このよう



に、物語中には作りたくない、あるいは食べたくない、という二つの要素も反映されているのだ。ちなみに矢子さんは女性を恋愛対象とするが、他者に性的に惹かれないとアセクシュアルでもある。異性愛規範だけでなく、広く性愛に関する規範が問われている。連載、そしてNHKでのドラマ版も継続中の「つくたべ」。女性を愛する女性、というモチーフ以上に、他者を尊重するとはどういうことかについて考えさせてくれる漫画だ。



施設のご案内



ホール



企画ルーム1

ホールは1年前から予約いただける人気会場です。講演や演劇、ダンス発表会などに利用できます。
小さな部屋もさまざまな目的に使えます。

[利用例]企画ルーム2でカードゲーム大会
490円×2時間=960円

男女共同参画の活動はもちろん、企業の会議やサークルのミーティングなど、グループでも、個人でもご利用いただけます。
お気軽にお問合せください。

	部屋名	面積(m ²)	定員(人)
5F	大セミナールーム	276	165
	小セミナールーム	135	60
	企画ルーム1	45	20
	企画ルーム2	33	18
	OAルーム	59	24
4F	料理室	62	24
	工芸室	63	24
	和室	69	36
	茶室	37	10
	フィットネスルーム	226	30
2F	ホール	647	520
1F	交流広場	403	200

お申込み・お問合わせ

施設運営課 TEL:093-583-3939

個人利用のご案内

初回利用時にムーブ3階受付にて「個人利用カード」を作成します。
身分証明書をお持ちください。



フィットネスルーム

各種トレーニングマシンがあります。インストラクターが常駐しており、ストレッチ体操も実施しています。

- 利用料金 2時間 450円、回数券10枚つづり3,600円
 ■時 間 [月・金曜日] 9:30~13:00
 [水曜日] 9:30~21:00
 [日曜日] 9:30~16:30



OAルーム

インストラクターが常駐しています。
Windows10 (office2019) のパソコンで各種アプリケーションソフトやインターネットをご利用いただけます。

- 利用料金 2時間 450円
 ■時 間 [水・金曜日] 14:00~16:00
 [土曜日] 13:00~17:00

冊子発行案内『北九州市における女性の活躍推進実態調査2023』(無料配布)

北九州市内の事業所では、女性の活躍に関してどのような取り組みが行われているのか。その実態を把握するために調査を実施し、結果をまとめた『北九州市における女性の活躍推進実態調査2023』を発行いたします。

お問い合わせ 情報課 TEL:093-583-5082

【調査対象】北九州市内の従業員数50人以上の民間・公営事業所

【調査項目】女性の雇用状況、年次有給休暇、育児休業制度、旧姓使用制度、健康経営等



北九州市立
男女共同参画センター

ムーブ

指定管理者 (公財)アジア女性交流・研究フォーラム

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11番4号
TEL : 093-583-3939 FAX : 093-583-5107
E-mail : move@move-kitakyu.jp
HP : <https://www.kitakyu-move.jp/>



Facebook



ムーブHP



Instagram

アクセス

駐車場

●JR西小倉駅から徒歩15分

●西鉄バス「ソレイユホール・ムーブ前」下車
【小倉駅バスセンターから】27 36 45 110 138
【小倉駅入口から】150 170 197
【天神バスセンターから】西鉄高速バス いとうづ号

●北九州都市高速 勝山ランプ・大手町ランプ出口より約3分

地下駐車場 100台収容(車高制限は2.1m)
30分ごとに100円 8:15~22:15(入庫は22:00まで)



ムーブのFacebook・Instagramでイベント案内をはじめ、いろいろな情報を発信しています。